

2021年4月15日

# 世界全体が 守られる

Gavi COVAX AMC  
投資機会



GAVI ワクチンアライアンス

GAVI COVAX AMC

COVAXの大きな利点は、経済的・政治的・地政学的な要因ではなく、受け入れ国のニーズに即したワクチン分配が保証されることです。

マリオ・ドラギ  
イタリア首相

# 目次

はじめに	4
ここまでの道のり	10
10ヶ月間にわたるCOVAX AMC運用 からの教訓	22
これからの道のり	30
今 何をすべきか	40
今こそ行動を起こす時	50
添付資料	54
添付資料1:ACTアクセラレータとCOVAX	
添付資料2:AMC対象国リスト	
添付資料3:2021年4月7日までにGaviのCOVAX AMC に誓約された63億米ドルの内訳	
備考および注意事項	61

# はじめに



II ワクチン政策とは、経済政策そのものです。この健康危機が速やかに収束に向かえば、2025年までに世界のGDPに9兆円近い利益がもたらされます。科学者たちは記録的な速さでワクチンを与えてくれました。今度は各国政府が同様の切迫感と協働体制をもって、あらゆる場所に暮らすすべての人々にワクチンを提供しなければなりません。

**クリスタリナ・ゲオルギエバ**  
IMF専務理事

2019年末に姿を現したウイルスは、全ての大陸へと広がり、世界各国の政府が国内をロックダウンし、人の移動を制限しました。その結果、2020年の世界経済は、平和時としては世界恐慌以来最悪となる不況に陥りました。ウイルスによる直接・間接の影響によって、さらに1億4300から1億6300万人が再び貧困に追いやられ、保健や教育、栄養分野の重要な進歩を後退させると予測されています。持続可能な開発目標(SDGs) 実現への道のりも足踏み状態となり、所得の低い国々のGDPは2.6%減と推定されています。2020年はサハラ以南のアフリカがここ30年以上で初めてマイナス成長に転じました。

高所得国は自国民への接種に向けたワクチン確保競争を繰り広げ、一部の国で2020年末に接種が始まりました。しかし、変異株の増加が示すように、世界の他の地域において新型コロナウイルスの蔓延が続く限り、高所得国における進捗が帳消しになる危険は常にあります。各国政府が所得の低い国々のワクチンへのアクセスを保証しない限り、世界経済は最大9兆米ドルもの損失を被りかねません<sup>1</sup>。

国際社会の求めに応じ、Gaviアライアンス(Gavi)はCOVID-19ワクチンへの公平なアクセスを目指すグローバルな取り組みを協働で



ウイルスの影響により、推定1億4300万~1億6300万人が再び貧困に追いやられる。

# 1.8BN

およそ18億回分の  
COVID-19ワクチンがAMCを通して  
事前予約された。

主導しています。この取り組みは、パンデミックが公衆衛生と経済活動に与える負のインパクトを軽減するための頼みの綱です。Gaviは、各国政府やワクチン製造業者、市民社会や協力機関と共に、ACTアクセラレータ(ACT-A)の柱の一つであるCOVAXファシリティへの開発に取り組んできました。(添付資料1を参照。)ワクチン調達を目的とした、この他に類を見ない多国間アプローチには190ヶ国・地域が参加しています。COVAXの枠組みの中でGaviが運営するCOVAX事前買取制度(COVAX AMC)は、公正かつ公平な先払い方式による資金調達によって、所得の低い国々に数十億回分のワクチンを届ける革新的な資金調達メカニズムであり、COVAXファシリティの支援対象となる92ヶ国(添付資料2を参照)をすでにサポートしています。

2020年6月に発足したCOVAX AMCは、投資リスクをシェアするため、極めて迅速に、まだワクチンが承認される前の治験段階で設立されました。このメカニズムは、所得の低い国々が直面するアクセスと資金調達という壁を乗り越え、すべての国で弱い立場に置かれる人々が安全で有効なCOVID-19ワクチンを確実に受けられるようにするためのものです。これはグローバルな利益の問題です。健康安全保障に国境はありません。1回分のワクチンもムダにされるべきではなく、ワクチンの接種体制が整っているにも関わらず待たされる国が出てきてはならないのです。

ここ数十年で最大かつ最速の国際的な取り組みにより、COVAX AMCは幅広い製造業者から接種およそ18億回分のCOVID-19ワクチンを事前予約しましたが、まだ確保には至っていません。また、各国政府や世界中の企業、慈善団体の結束が、命を救うワクチンを確保するための資金63億米ドルの調達につながりました。(添付資料3を参照。)その結果、AMC対象国の65%に対しワクチンの第一次配分が実施され、5月までにはAMC対象国の人口の平均2.5%をカバーできると期待されています。この節目に至る過程で、COVAXのパートナーは、供給の逼迫とワクチン獲得競争という環境下でのワクチン接種について重要な教訓を得ました。

はじめに



世界は、あらゆる場所に暮らすすべての人々を守るための大きな一歩を踏み出しました。グローバルな協働アプローチは、アクセスをめぐる金のかかる競争から所得の低い国々を守る道筋を用意します。私たちはこの初期の成功を祝うだけでなく、新たな課題の解決に向けてこの枠組みをさらに発展させねばなりません。

過去数ヶ月、変異株による感染が拡大し、国際社会は新たな危機に直面しています。まだワクチン接種を開始して4ヶ月に過ぎず、科学と接種分野の課題が残っていることを忘れてはなりません。ワクチンの有効性や効果の持続性、変異株に対するワクチンの有効性について、まだ完全には分かっていないのです。

同時に、AMC対象国の93%以上が、2021年にCOVAXが提供できる量を超えるワクチンを求めています。AMC対象国の人口は合わせて40億近くと、世界人口のおよそ半分を占めており、より大規模なワクチン接種が求められます。2020年12月に各国から提出されたワクチン申請書によると、45ヶ国が20%を上回るワクチン接種率を希望し、平均で人口のおよそ半分の接種を求めています。強固なワクチン接種プログラムの構築はパンデミックと世界経済に対する大きな先手となり、各国における通常の予防接種プログラム強化への道を開きます。

さらなるワクチン接種拡大とCOVID-19変異株に有効な新世代ワクチンの開発こそ、世界のリーダーたちが目指すところです。

**そこに到達するには、すでに拠出誓約がなされた63億米ドルに加え、最大20億ドルのドナー資金を確保する必要があります。これはワクチン接種率を上げ、より多様なワクチンポートフォリオによる変異株との闘いに備えるためです。それと平行してAMC対象国は、世界銀行やその他の多国間開発銀行(MDBs)の支援を活用し、追加のワクチンとその接種のために自己資金を準備しなければなりません。**

もしドナー国と実施国がMDBsの支援による費用分担を通じて協働すれば、COVAX AMCは2022年に向けて最大接種18億回分のワクチンを確保して所得の低い国々の人口の30%近くを守り、2022年からその先を見据えて計画を立てられます。この数字は、必要量を超えるワクチンを購入した国からのワクチンの寄付により、さらに増やすことが可能です。

2021年6月、Gaviはこれまでの進捗を評価するとともに必要な資金を確保し、これからの道のりに備えるため、重要な会合を開催します。ウイルスとその変異株の感染が拡大する中、悠長に構えている時間はありません。早急に世界をひとつにし、守らねばならないのです。



**ジョゼ・マヌエル・バロージョ**  
Gavi理事長



**セス・バークレイ**  
Gavi事務局長

# ここまでの道のり



II ワクチンへの公平なアクセスを実現するため、世界はCOVAXの下に結集しました。多くの人々の命を守り、世界経済を再出発させるためにも、前例のないこの驚くべき世界的な取り組みを続けなければなりません。

**リア・タデセ**  
エチオピア保健相

6ヶ月という記録的な速さで立ち上がったGaviのCOVAX事前買取制度(AMC)は、すでに所得の低い92ヶ国へのワクチンの配送を開始しました。初期のワクチン市場では需要が供給をはるかに上回ります。従って初期の活動は、パンデミック急性期を終わらせるための第一段階として、所得の低い国々におけるすべてのハイリスク集団と前線で働く保健医療従事者に絞ってワクチンを届けることです。

この目標を達成するために、ワクチン候補およびワクチンの幅広いポートフォリオがCOVAXファシリティに組み込まれました。ワクチン製造業者6社(今後も増える見通し)がCOVAX AMCを通じ、今年中に最大で18億回分の命を救うワクチンを確保し、2022年にかけて配送します。この第一段階は、ワクチンでパンデミック急性期を終わらせるという当初の目的に沿ったものです。2021年半ばまでにおよそ5億回分のワクチンが出荷される見込みで、人口のおよそ5%を守るのに十分な量です。これが実現するかどうかは、各国のワクチン接種の加速によって急増した需要を製造業者がどう満たすかに懸かっています。さらに不確定要素となるのが、自費でワクチンを購入している高所得国



2021年半ばまで  
におよそ5億回分  
のワクチンが出荷  
される見込み。

がどの程度COVAXからワクチンを確保するかという点です。(図1を参照。COVAXがワクチン製造業者から確保および事前予約したワクチン量の合計が示されています。)

GaviのCOVAX AMC対象国に最初のワクチンが到着したのは、まず2021年1月20日にアジア、そして2月24日にアフリカでした。**高所得国**が初めて自国のワクチン接種プログラムを開始してから、**遅れることなくわずか3ヶ月未満**です。2020年に調達されていた資金のおかげで、その後6週間のあいだに3000万回分以上のCOVID-19ワクチンがAMC対象国へ発送されました。第一次配分が進む中、4月初めまでにAMC対象国のうち60ヶ国が最初のワクチンを受け取りました。ケニア、コートジボワール、西岸地区とガザ地区などはCOVID-19の第3波に直面しており、タイミングはきわめて重要です。南スーダンは3月下旬、他のAMC対象国とともに132,000回分のワクチンを受け取り、自国の保健医療従事者への接種を開始しました。COVAXパートナーの支援の下、南スーダンはワクチンを安全に接種し処理するための注射器とセーフティボックスを備蓄していたため、ワクチンの到着とともに国内での接種を開始する準備が整っていました。南スーダン政府は、優先接種の対象者に無償提供されるワクチンで接種率40%を目指しています。

公平なワクチンへのアクセスがCOVAXの核心です。世界保健機関(WHO)が公正で平等なCOVID-19ワクチンの分配を保障する**公平な分配のためのメカニズム**の立ち上げを主導し、独立グループの監督下に置かれています。

COVAXはすべての国に対し、支援を必要とするすべての人々<sup>2</sup>をワクチン接種計画に含めるよう奨励していますが、これは人道支援の現場に暮らす見過ごされがちなグループを取り残さないためです。そのために、緊急人道支援用のバッファとしてCOVAXワクチンの最大5%もしくは4億1500万米ドル分を備蓄することになりました。

パンデミックにおけるワクチン供給に不可欠な存在として、AMCは1億500万米ドル相当の財源を**無過失補償制度(NFCS)**に提供し、新しいCOVID-19ワクチンの接種に伴って有害事象が発生した場合に、人々が補償にアクセスできるようにしました。

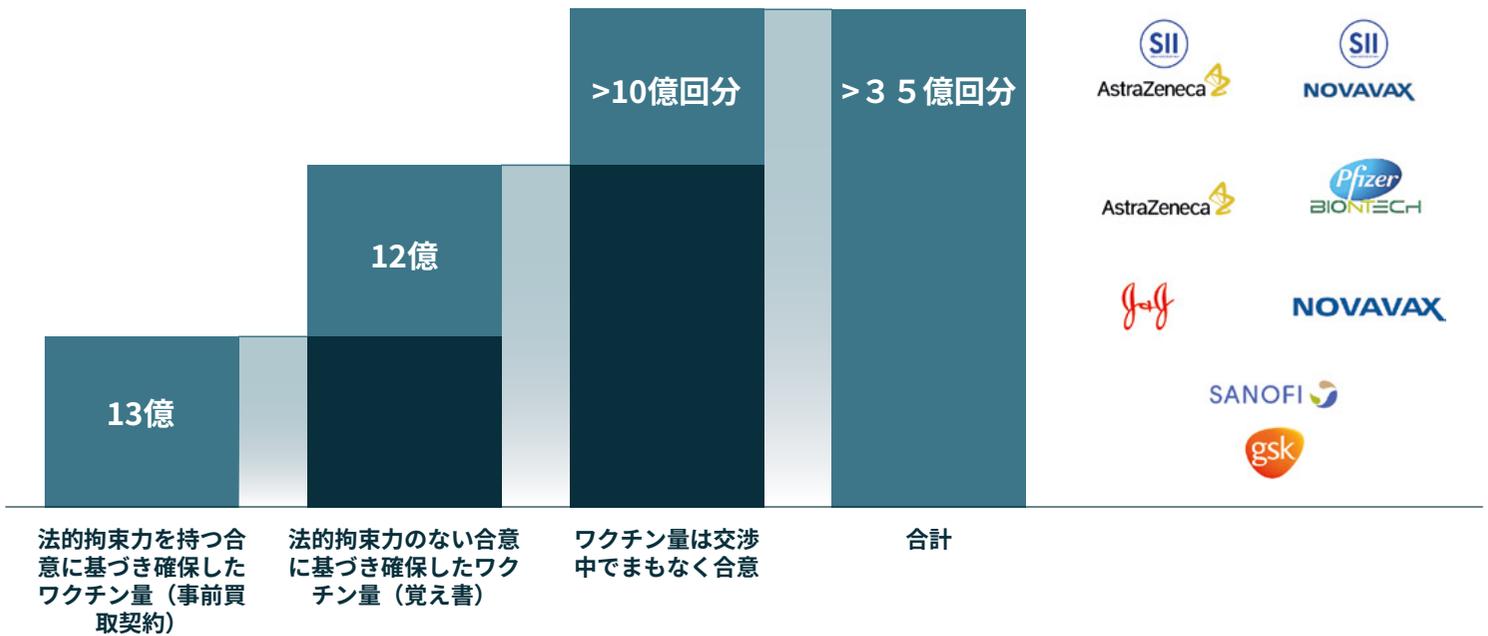
図表. 1

## COVAXファシリティ ポートフォリオ概要

COVAX供給可能量 2021年および2022年 (単位は100万回)

データは2021年3月22日現在

7社との供給契約を締結



**Note:** total includes volumes of 3 additional candidates which COVAX is currently negotiating for.

補償制度は世界最大級の損害保険株式会社Chubbが管理し、WHOが運営し、Gaviが出資しています。この制度はワクチン接種後に有害事象が発生した場合、速やかに調査し、本人あるいはその家族に補償をするものです。GaviとCOVAXパートナーによる通常の契約上の補償と責任とともに、この**特別な保険**により、ワクチン製造業者が通常の賠償責任保険に加入できるようになるのを待つことなく、ワクチンを速やかに各国に届けられます。

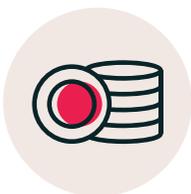
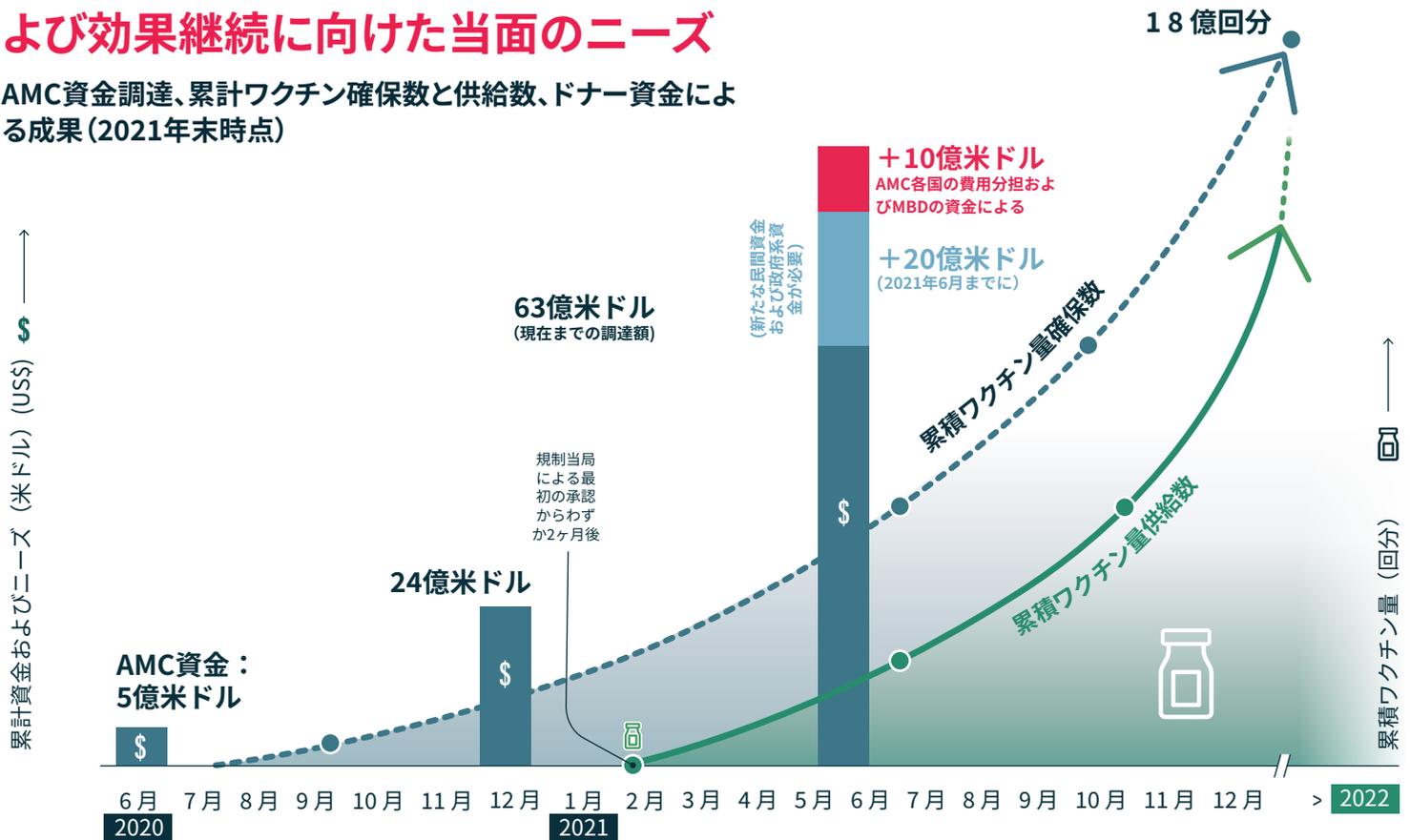
**COVAX AMCの早期の成功は、国際社会による迅速で強い支援があったからにはほかなりません。**2020年6月、英国主催のグローバル・ワクチン・サミットでの立ち上げから2021年2月のG7オンライン首脳会議までに、COVAX AMCは40ヶ国以上の政府や企業、慈善団体からの拠出を受けました。

2020年12月までにGaviに支払われた4億米ドルは、ワクチン製造業者との事前購入契約 (APA) の締結によって発生する前払い金の支

図表. 2

## AMCの現在までの成果および効果継続に向けた当面のニーズ

AMC資金調達、累計ワクチン確保数と供給数、ドナー資金による成果(2021年末時点)



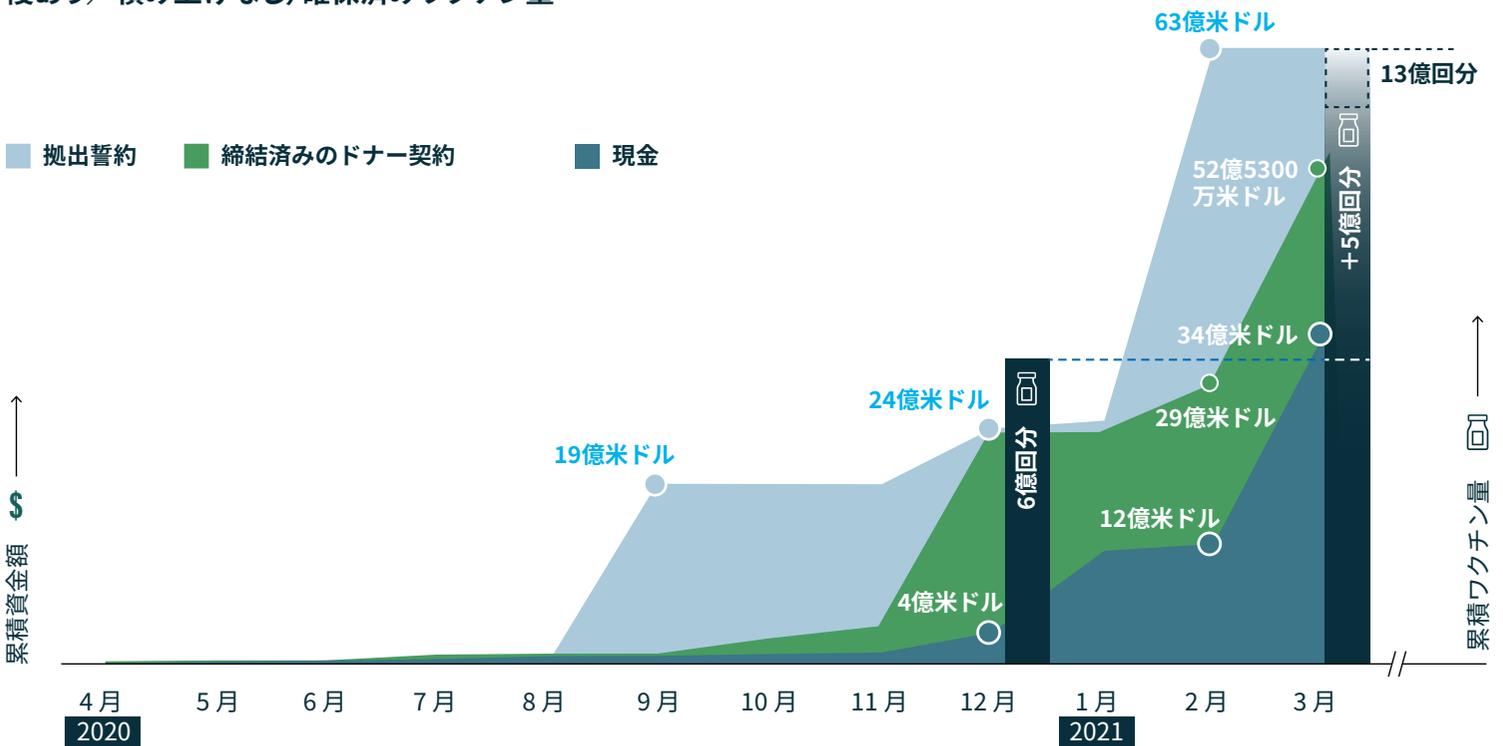
設立以来、COVAX AMCは40ヶ国以上の政府や企業、慈善団体からの拠出を受けた。

払いに当てられ、接種6億回分のワクチンが事前予約されました。更には、この時点で24億米ドルが誓約されていたため、前払金を差し引いた差額の支払いの見込みもつきました。さらにGavi は、2021年3月までに調達した30億米ドルの追加拠出をもとに新たなAPAを結び、少なくとも13億回分を確保するための前払いをしました。ここで合意されたワクチンの価格は、目標としていた1回分あたり平均5.20米ドル以下に収まっています。この時点で誓約額は63億米ドルにのぼり、残りの金額を全額支払う見通しが立っています。

図表. 3

## COVAX AMCへの拠出誓約 および現金の累積額

拠出誓約および受け取り済みAMC資金(累計および重複あり/積み上げなし)確保済みワクチン量



今年の4月上旬の時点で、Gaviには追加ワクチン7億回分の事前予約の前金に充てる十分な資金がありますが、確保に必要な全額にはまだ届きません。20億ドルの追加拠出誓約と実施国の費用分担10億ドルがあれば、全額支払いが可能です。ドナーの追加支援やAMC対象国の協調融資により、目標としている少なくとも18億回分のワクチンが購入できる見通しです。

ワクチン調達に加え、Gaviは実施国とともにCOVID-19ワクチン接種プログラムの効果的な運用に務めています。Gaviの20年にわたるワクチン需要予測の経験は、需要シナリオや関連する供給と財政的ニーズに関するワクチン製造業者の信頼につながっています。

## 事前買取制度の力を活用する

COVAX AMCは、2009年に始まった総額15億米ドルの肺炎球菌結合ワクチン事前買取制度(PCV AMC)の経験に基づき立ち上げられました。PCV AMCは、低所得国の乳幼児の主要な死因となる感染症に対する複合ワクチンの価格引き下げと、供給元の多様化を実現しました。PVC AMCのおかげで、乳児用PCVワクチンを高所得国での導入から1年以内に所得の低い地域に届けることができたのです。PCV AMC対象国73ヶ国のうち60ヶ国でPCVが導入され、2020年にさらに3ヶ国で導入認可が下りました。これは対象国全体の86%にあたり、プログラム開始以来、2億1500万人の子どもたち<sup>3</sup>がPCVの接種を受けました。2020年には、テール価格にして2米ドル(5回分入りバイアルのワクチン接種1回分あたり)と記録的な低価格を実現しました。さらに接種の拡大によって57万人以上の死を未然に防ぎました。PCV AMCと同様に、COVAX AMCは「市場の失敗」の解決に取り組むことでCOVID-19ワクチンへのアクセスを促進しています。COVAX AMCは事前購入契約を採用し、WHOの承認に先立って独立製品グループ(Independent Product Group:IPG)の専門家による評価を経た上で、ワクチン製造業者の選択肢を確保しています。これにより、COVAX AMCはワクチンの承認と同時に、各国のワクチンへのアクセスを加速させることができます。



# 86%

支援対象国の85%で  
肺炎球菌結合ワクチン  
(PCV)の導入済み

# MM8778 \$

Gaviアライアンスは現在、追加のドナー資金7億7800万米ドルをワクチン配送支援に回している。

2020年9月、Gaviは長期の準備期間が必要な投資は速やかに行うべきという認識から、コールドチェーン機器の準備とそれに伴う技術支援に1億5000万米ドルを提供しました。主要パートナーおよびその他のパートナーから募ったおよそ400人のスタッフがすでに派遣され、技術支援を行うとともに、Gaviの資金を元にユニセフが調達している大量のコールドチェーン機器を届けています。

Gaviは現在、追加のドナー資金7億7800万米ドルをCOVID-19ワクチン配送支援に回し、MDBや二国間ドナー、支援国の国内予算からの資金を補っています。コールドチェーン機器を十分に整え、必要な技術支援を行い、インパクトの大きい新技術（ワクチン・トレーサビリティなど）をスケールアップし、重大な資金提供ギャップの解決を図ることで、各国のワクチン接種実施をサポートし、ワクチン接種体制や配送システムを強化します。確実性の向上と重大なリスクを軽減するため、資金の一部はワクチン接種の監督に回されます。

**この一連の投資により、貴重なCOVID-19ワクチンを廃棄処分にするリスクを軽減し、対象国がCOVAX AMCを通じて供給されたワクチンを最大限に活用できるようにします。**2021年3月半ばまでにGaviはAMC対象50ヶ国から3900万米ドルを超えるコールドチェーン機器のための資金援助の申請を受けました。Gaviとパートナーは申請書受理から4ヶ月以内での配送を目指しており、COVID-19ワクチン接種に向けた緊急のタイムラインと同様のペースで、冷蔵室や凍らない保冷容器、リモート温度管理システムなどが整備されます。



# 10ヶ月間にわたる COVAX AMC運用 からの教訓



# II COVID-19ワクチンへの平等なアクセスが、このパンデミックを終息させる最速で最も公正な方法です

**ビル・ゲイツ**

ビル&メリンダ・ゲイツ財団共同創設者



2020年3月11日、WHOがCOVID-19のパンデミックを宣言。すでにこの時点で、CEPIとGaviはCOVIDワクチンプログラムに関する検討を開始していた。

2020年3月11日、WHOがCOVID-19のパンデミックを宣言。すでにこの時点で、感染症流行対策イノベーション連合 (CEPI) とGaviはCOVIDワクチンプログラムに関する検討を始めていました。2020年4月24日に発足したACTアクセラレータにおけるCEPI、GaviおよびWHOが主導するワクチン供給の柱がCOVAXです。最初のCOVAX AMC投資機会は2020年6月4日のグローバル・ワクチン・サミットにおいて発表されました。(添付資料1を参照。)

それから10ヶ月が経過し、私たちは貴重な教訓を得ました。契約策定やパートナーシップ、サプライチェーン、規制要件などの重要性についてです。あらゆる場所ですべての人々をCOVID-19の影響から守るため、この教訓を生かし、GaviとCOVAXはパートナーとのパートナーシップを築きます。

## 契約戦略と資金調達

ワクチン産業界での20年にわたる市場形成と運用経験、そしてCEPIによるCOVID-19ワクチン候補の研究開発への早期の投資をもとに、Gaviは覚書 (MOU) と法的拘束力を持たない複数のツールを伴って早い段階で市場に参入しました。AMC対象国や自己資金で調達する高所得国からなるCOVAXファシリティーの参加者を代表して、特定

のワクチン製造業者との契約の意思を示すためです。MOUを事前購入契約 (APA) へと転換する上で妨げとなる重要なファクターは、手持ちの現金が限られていること、ドナー国の法的拘束力のある拠出誓約の必要性、そしてワクチン候補の開発が失敗したり最終的に認可されなかった場合の資金の回復性に対してリスク許容度が低いことです。そこで、初期および現在の戦略はオプション交渉と注文へのコミットメントに力を入れています。

この初期の戦略が功を奏し、手元の資源とリスク許容度を最大限に生かすことができました。2021年末～2022年はじめにかけての戦略および2022年から先の戦略を立てる中で学んだのは、スピードと価格、確保したワクチン量と多様性の兼ね合いです。低所得国のための価格削減交渉は、長期のバリュー・フォー・マネーには不可欠ですが時間がかかります。供給元の多様性には早期の投資と高いリスク許容度が求められます。同時に、ワクチンの認可前に、事前予約だけでなく全額引き受けが必要となるのです。特に他の大規模購入者に制約がない場合には、現金が十分でない点とリスク許容度の問題は大きな障害になると実感しています。

ワクチン製造が少数の業者に集中するのを避け、緊急需要の増加に対応し、変異株に対する備えを固めるためにも、私たちは多様で幅広いワクチンポートフォリオ構築を目指しています。そのためにはGaviはリスク許容度を調整し、速やかに投資資源を確保する必要があります。しかし、これを私たちだけで実現することはできません。製薬業界の確固たるコミットメントが必要であり、主要なワクチン生産国も、国内外の需要、ワクチン量と価格のバランスを取りつつ、世界的な協働体制に協力することが不可欠です。

## 信頼とパートナーシップ

史上最大規模のグローバルなワクチン接種を実現するためには、既存の組織とシステムに基づくパートナーシップが不可欠です。急速に拡大するパンデミックに直面し、かつ既成の選択肢が少ない場合、グローバルヘルスのパートナーは既存のメカニズムと知識、プラットフォームを柔軟に応用しなければなりません。Gaviアライアンスは、パンデミック



研究開発は予想を上回る成功を収め、接種10億回分のワクチンを届けるというCOVAXの当初の目標を超えることができた。

への緊急対策を即座に実施するためのパートナーシップとして活用されています。

20年間にわたるワクチン調達と接種支援の経験に基づき、COVID-19ワクチンへのアクセスを望むAMC対象国はGaviとCOVAXパートナーとの協働にきわめて積極的でした。88ヶ国がCOVAX AMCに参加し、Gaviの資金による技術支援を受けつつ国家ワクチン接種計画を立案しました。

COVAXに関するコミュニケーションは骨の折れる作業でした。AMC諸国に加え、自己資金でワクチンを調達する高所得国もCOVAXに参加しているため、パートナーシップやメカニズムがより複雑になるからです。たとえば急ピッチのCOVAX立ち上げ、COVAX発足時の限られた人



員、ワクチン製造業者と最善の契約を結べるかどうかというCOVAXの力量に対する先入観、開発が成功するかは不透明であるというワクチンには付きものの問題、そしてワクチン確保競争が加熱する中でどれだけの供給がコミットされるかなどの課題が挙げられます。これら課題のいくつかは、ウイルス感染の拡大に伴い継続する見通しで、初期の規模拡大中の供給中断も続きます。

またCOVAXは、Gaviアライアンスという既存の信頼できる強固なパートナーシップをベースに、新たなパートナーシップとアプローチを加えてできたものです。アフリカ連合のアフリカ・ワクチン調達タスクフォース (AVATT) との協働、COVAXという国際的なCOVID-19パンデミック対応に関心を持つEUと加盟国によるいくつかの新しいアプローチ、新たなやりかたでの資本提供を試みる商業金融機関や保険会社、国際金融機関とのパートナーシップなどが事例です。

### 規制の問題と運用化

WHOのワクチン承認は厳格であり、またそうでなければなりません。COVAXの目標は、Gaviが通常調達しているワクチンと同様、高度な科学的基準を満たす安全で有効なワクチンを届けることであり、最低でもWHOが定義する信頼できる規制当局 (Stringent Regulatory Authority: SRA) による承認が求められます。ワクチン承認と勧告はワクチンの信頼性に不可欠ですが、契約戦略の修正がなければ供給のペースを遅らせる可能性をはらんでいるということが分かりました。

COVAXのような新たなメカニズムのガバナンスには、新たな監督組織が必要です。相当の注意に基づく手続きが必要なため、これには時間がかかります。補償と責任の問題も大きな壁となりましたが、AMC資金により、この問題は現在だけでなく将来に向けたグローバルな公共財として解決されつつあります。

歴史的にみると、治験の第三段階を通過するワクチン候補はわずか20%です。それを踏まえ、COVAXは最悪のシナリオに備えて

COVID-19ワクチン候補の幅広いポートフォリオを構築しました。しかしながら、研究開発は予想を上回る成功を収め、所得の少ない国々に対し2021年中に接種10億回分のワクチンを届けるというCOVAXの当初の目標を超えることができたのです。

一方マイナス面としては、研究開発の成功によりワクチンの需要が高まり、新たなワクチンの接種を空前のスケールで実施する際に付きものの複雑さと課題が加わることになりました。つまり、契約戦略と資金調達に対しては、現在・将来的な課題に柔軟に対応するアプローチが必要で、これまでの教訓を元に調整しなければならないということです。

### 国内計画とコールドチェーン

研究開発の成功は、高所得国が二国間取引でワクチンを押さえ、速やかに接種開始できることを意味するため、それ以外の国々の不安をかきたて、COVAXによるワクチン供給へのプレッシャーが高まりました。これこそが、スピーディーな事前計画が不可欠で、今後も重要であり続ける理由です。COVAX AMC対象国もこれを認識し、速やかにワクチン申請書と国家ワクチン接種計画を提出しました。3月半ばまでに、AMC対象国ではGaviの支援により、ワクチン配送に備えて必要な準備の80%以上が完了しています。

COVID-19ワクチン接種プログラムは前例のないスピードとスケールで実施されるので、各国に適した技術支援を提供することが不可欠です。初期のワクチン接種のプランニングと実施のための適切な支援は、COVAXパートナーとGaviの広いパートナーネットワークにとって主要な課題であり、ドナー資金によるワクチンを適切に使用するための重要な取り組みです。

AMC対象国におけるコールドチェーンのキャパシティを拡大するための投資は、ワクチン製造と供給が増大するのに並行して行わなければならないなりません。必要な設備が整った国では、1回分のワクチンをもムダにしなくて済むのです。

## ワクチンポートフォリオ戦略

パンデミックをめぐる状況が変化していること、そしてGaviとパートナーがワクチン製造業者との関わりを通して学んだことを踏まえ、ワクチンポートフォリオ戦略は以下の点をより重要視しています。

- ワクチン確保のための十分な前金支払いによる恩恵
- 供給の多様性(地理、施設、企業、技術)
- 早期により多くのワクチン量を確保することが最低価格にこだわるより重要
- 疫学的進歩への対応

## ワクチン製造規模の拡大

ワクチンの製造が歴史上類のない規模で拡大しているため、重要な材料不足を招いています。パンデミック以前、ワクチン製造業界は通常、季節性インフルエンザワクチン15億回分を含め、年間50億回分程度生産していました。

COVID-19ワクチンの需要は他の重要なワクチンの供給に問題を引き起こす可能性があります。2021年の製造拡大で、世界の総生産量は2倍になりますが、それでも世界的な需要には届きません。輸出規制により、ただでさえ複雑なサプライチェーンに負担がかかり、最善の結果が出ないかもしれません。

COVAXが介在することで、ワクチン製造業者は生産の急拡大への投資にいつそうの確信を持ちます。新たに立ち上げられたCOVAX作業グループは、各国と業界の相互利益のため、複雑な国際サプライチェーンにおける課題の早期解決を目指します。

## 革新的な資金調達

早期の大規模な資金調達と前金の支払いは、将来的な調達と接種のためのワクチンの事前予約に必須です。大規模な早期資金調達のカギとなるのがIFFImの存在です。ドナーは長期にわたる拠出を誓約し、IFFImはワクチン債の発行によりドナー資金を前倒しして、Gaviの当面の資金ニーズを満たし、早期にインパクトが出るようにします。

IFFIm以外にも、柔軟な資本調達のための新たな協力関係が結ばれつつあります。たとえば、Gaviと欧州投資銀行(EIB)は、ドナー国の予算が直面し得る現金の不足を解決するため新たなアプローチを構築しました。またGaviとMDBは、ワクチン接種を加速したいと希望する国々に資源を提供するための手続きを設計しました。商業資本の投資家は、大規模な低コストの債権の起債についてGaviと協議中です。このツールは、将来の資金調達をより柔軟に、低コストにするパラダイムシフトを起こせるかもしれません。

最大の教訓は、大規模な緊急資金調達と必需品のサプライチェーンの整備は、将来のパンデミックに対する必要な備えだということです。





## 真の公平

公平なアクセスはCOVAXの基本理念です。単にすべての国がCOVID-19ワクチンへの公正なアクセスを確保するというだけではありません。WHO主導のもとに作られた分配メカニズムであるとともに、公平で最新の科学的エビデンスに沿った参加国へのワクチン配分を監督する独立機関を備えているということです。

予防接種に関する戦略諮問委員会 (Strategic Advisory Group of Experts on Immunization: SAGE) と WHOの勧告に則り、公平な分配のための枠組みが、どのグループからワクチン接種を受けるか指示を出します。勧告では優先的にCOVID-19ワクチンを接種すべき3つのハイリスク・グループが特定されています。前線で働く医療および社会福祉関係者、65歳以上の成人、そして重症化リスクのある基礎疾患を有する65歳以下の人々です。

SAGEの指針がまず前線の医療・社会福祉関係者を優先するよう勧告するのは、自らが感染し感染拡大を引き起こすリスクが高いからだけではなく、その存在自体がワクチン接種を含むCOVID-19との闘いに欠かせないからです。もし2021年上半期に、COVID-19ワクチンが公平に分配され、すべての国に少なくとも人口の3%に接種するだけのワクチンが届くならば、世界の医療・社会福祉関係者のすべてを十分に守ることができます。その後はワクチンの供給量の増加に合わせて、3つのハイリスク・グループを含む少なくとも人口の20%をカバーするまで公平に分配し続けるべきです。



# 20%

20%:すべての国で、少なくとも人口の20%に接種するまで公平に分配し続けるべきである。

# これからの道のり



II 新型コロナウイルスに打ち勝つには、ワクチンをできるだけ早く、世界の隅々まで届けなければなりません。COVAXはCOVID-19ワクチンへの広範かつ公平なアクセスへと私たちを導く最善の手段なのです。

ウルズラ・フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長

COVAX AMCの最優先事項は、所得の低い国々が安全で有効なCOVID-19ワクチンへのアクセスを確保することです。継続したグローバルな結束と投資のおかげで、この目標は手の届くところにあります。

新型コロナウイルス変異株の発生により、パンデミックの急性期を終わらせるための闘いは新たな局面を迎えました。変異株B.1.1.7は英国で初めて確認され、従来株より感染力が70%強い可能性が指摘されています<sup>4</sup>。その他にも南アフリカで最初に確認されたB.1.351、そしてブラジルで確認されたP1と、2種類の変異株が発生しており、感染力の高さと既存のワクチンに対する免疫反応の低下が懸念されています。

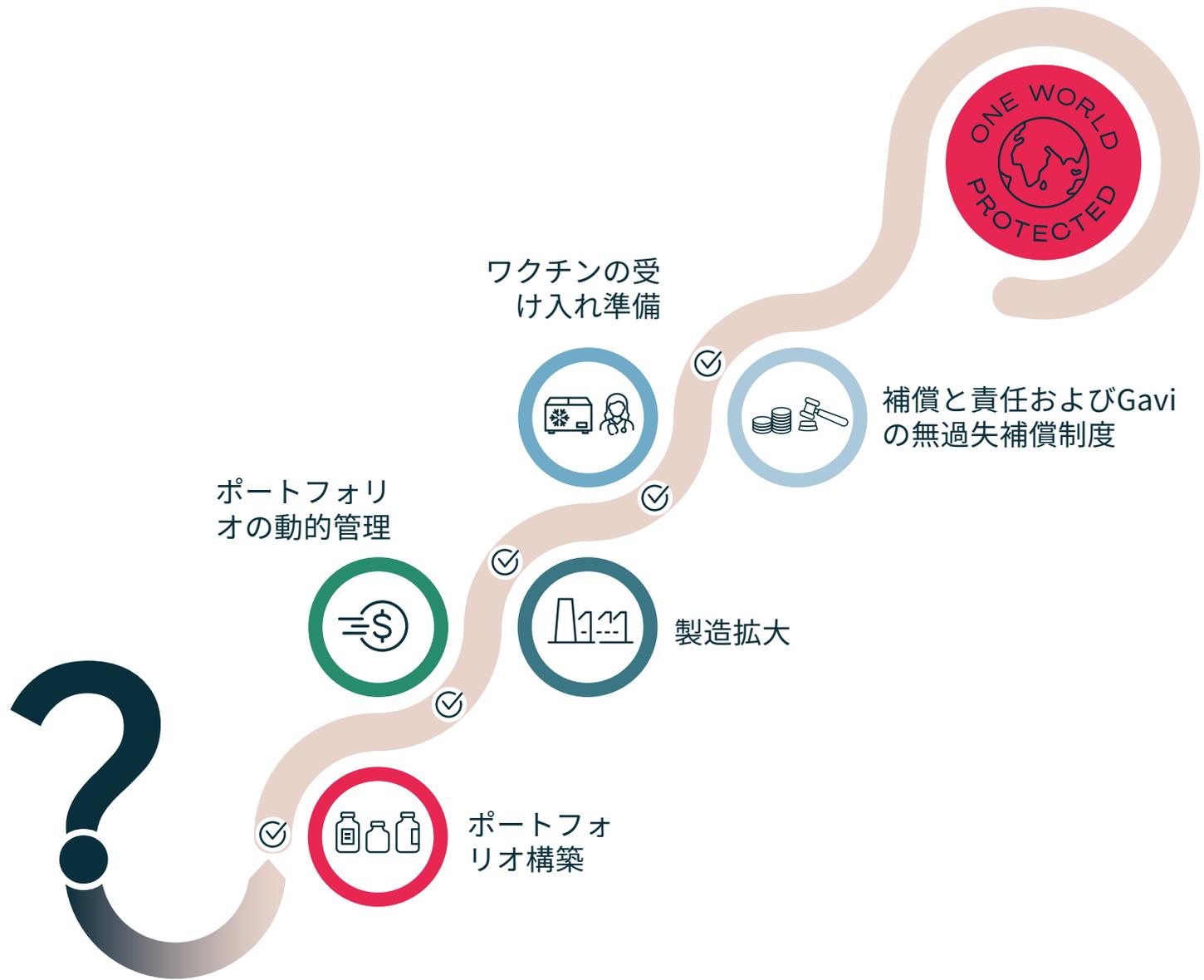
新たな脅威に直面したAMC対象国は、COVAXに対するワクチン要請を上積みしました。Gaviは、ドナー国資金で現在までに確保した以上のワクチン量を求めるAMC対象国に対し、最新の需要情報を求める予定です。2020年末のワクチン申請書の合計によれば、AMC対象国全体として、ワクチン接種率37%が求められています。

70%

70%:変異株  
B.1.1.7は従来株  
より感染力が70%  
強い可能性。

つまり、COVAX AMC対象国は、変異株の感染予防と、迅速に接種を進める高所得国に遅れないために、早急にワクチン接種を拡大するよう求めているのです。

図表. 4  
不確実性の軽減





## | 2021年

COVAX AMCは2021年に少なくとも接種13億回分のワクチンを確保するという初期目標に近づいており、ドナー資金とAMC諸国の国内資金により、さらに追加の5億回分をCOVAX経由で確保できます。これで2022年初頭までにAMC対象国の接種率が30%近くにまで上がると同時に、AMCのワクチンの選択肢が増え、加速化したタイムラインの需要を満たせるようになり、2022年初頭まで継続的にワクチンが提供されます。

いくつかの高所得国は、ワクチンの余剰分をCOVAXに寄付することを表明しています。これがCOVAX AMCのインパクトをさらに拡大させるために重要な手段となります。

変異株による感染拡大は、COVAXがダイナミックなCOVID-19ワクチンのポートフォリオを持ち続ける必要があることを意味します。Gaviはこれからも、ワクチン製造業者および新たなワクチン候補の研究開発に投資するCEPIと緊密に連携していきます。

## 2022年とその先へ

パンデミックの行く末が不透明な中、向こう数ヶ月間のパンデミックの疫学については、いくつかのシナリオが想定されます。

ワクチンポートフォリオが進化するにつれ、**予防接種のコストは変化します**。コストは相反する2つの要因によって真逆の方向に導かれるでしょう。新世代のワクチンはより使い勝手がよく、コールドチェーンの要件も緩やかで、大規模接種に最適化されて、1回の接種で済むようになる可能性があります。そのすべてがワクチンの調達と国内での接種にかかるコストを削減する要因になり得ます。その一方で、変異株の脅威によって、ブースター接種や、複数の変異株に対するワクチンの開発・導入が必要になるかもしれません。その場合、コストは増加します。

**より多くのワクチンの供給が保証されるようになるでしょう**。世界で稼働するワクチン製造拠点が増えるにつれ、生産がより活気づき、サプライチェーンは地理的にも製品の種類の面においても多様化するからです。

**規制に関する協力は引き続き向上させるべきです**。そうすれば新たな変異株用の新たなワクチンの承認が必要になった場合、安全かつ迅速に手続きが進み、ワクチンを世界中に配送することができます。

**ワクチンの普及に伴い、ロックダウンや医薬品以外による対応は取られなくなるかもしれません**。しかし、ワクチン接種率を上げながら感染の急拡大を抑えるためにはまだ必要です。制限措置がすぐには解除されないと仮定した場合、最新のインパクトモデルによれば、18億回分のワクチン<sup>5</sup>で20万~80万人の死を防ぐことができます。2022年について予測するのは難しいものの、もし社会が完全に開放され、事実と反するシナリオながらワクチンがなかった場合、ワクチンの力で救えたはずの命は数百万人以上に上るでしょう。





ワクチンで20万~80万人の死を防ぐことができる。

GaviのCOVAX AMCによる低所得国への支援の次の段階については、以下の3つのシナリオが考えられます。

- 1 パンデミックを完全に抑え込み、追加施策が必要なくなる。
- 2 各国でワクチン接種率が上昇し、危険にさらされている人々がかなりの割合で危険な感染症から守られ、感染率が低下する。
- 3 最もリスクが高い人々に対し、優先的にブースター接種または既存のワクチンか新たなワクチンを再接種し、危険な感染症と新たな変異株への免疫を有する期間を延ばす。

どのシナリオになろうとも、COVAX AMCは柔軟に対応できるよう設計されています。第2あるいは第3のシナリオの場合、**COVID-19のパンデミックは変化を遂げ**、長期にわたって存在する感染症として、常に世界のどこかで発生するようになり、ワクチンで予防できる疾患の長いリストに名を連ねることになります。子どもに接種した場合のワクチンの免疫原性や安全性、有益性については研究が続けられており、Gaviアライアンスはこの行方を慎重に見守っていきます。

これが現実のものとなった場合、GaviはAMC対象国と協力してCOVID-19ワクチンを定期予防接種に組み込み、**協調融資の仕組み**を立ち上げ、需要予測と政府の備えをサポートします。Gaviがすでに他のワクチンに関して行っているのと同様の支援です。

その場合COVAX AMCは、**所得の低い国々に大量のワクチンを安価で確実に提供するべく、長期の市場形成メカニズム**を担当します。

またGaviはMDBや国際金融機関 (IFI) と緊密に連携します。MDBとIFIには、COVID-19パンデミックへの備えのための緊急財政支援においてさらに重要な役割を担い、国際開発予算への負荷を軽減することが期待されています。

2022年に必要となるだろう最低限の資金を把握するため、接種の需要やブースター接種の必要性、価格変動の要因、予防効果の持続期間など、幅広い要素に基づいてさまざまなシナリオや予測が立てられました。この初期段階の予測はあくまで仮定ですが、資金額は、AMC対象国で接種率50%を達成し、危険にさらされている人々の20%にブースターを1回接種するための95億ドル(フル装備のワクチン1回分あたりの最も安い予想平均価格4.20米ドルで計算)から、AMC対象国で人口の60%にそれぞれワクチン2回とブースター1回を接種するための230億ドル(ポートフォリオで最も高い予想平均価格ワクチン1回分あたり7米ドルで計算)まで幅があります。

## 世界健康安全保障

Gaviの核となるミッションは、途上国における公平で持続可能な予防接種プログラムの支援で、国際保健規則（2005年）に基づくこれらの国々の義務を遂行するのに不可欠です。定期予防接種は感染症を防ぎ、疾病監視を支え、保健とコミュニティーアウトリーチに人的資源を向けることで、健康にかかわる緊急事態への国内の備えと対応能力を強化し、健康安全保障に寄与します。

またGaviは長年にわたり、流行の恐れのある感染症を予防するワクチン備蓄の管理を通じて、世界健康安全保障に貢献してきました。備蓄されたワクチンは、ワクチンで予防できる感染症の流行に直面した国であればどの国にでも提供されます。備蓄からワクチンの提供を受けた高所得国は、Gaviに費用を支払います。所得の低い国々での流行に際しては、速やかに、また透明性を保持した形で対応できるよう、Gaviが備蓄の費用を負担します。髄膜炎や黄熱病、コレラ、最近ではエボラ出血熱など、感染力が強く致死率の高い感染症については、Gaviはワクチン業界との協力の上バッファとなる備蓄を用意しています。パートナーとの協力で、Gaviはワクチン接種の実施費用にも資金提供し、できる限り速やかにワクチンをコミュニティーに届けて感染を抑制し、死亡者数や後遺症を減らし、流行を収束させるよう努めています。

流行の恐れのある感染症の発生は、他の感染症を誘発するリスクもはらみます。たとえば2019～2020年、コンゴ民主共和国東部でエボラ出血熱が流行している間に、麻疹による死者がエボラによる死者の2.5倍にもなりました。すでに逼迫している保健医療システムから、エボラのための接触追跡と予防接種キャンペーンに資源を割かねばならなかったからです。多様なシナリオに対応できるだけの十分な体力を備えた保健医療システムの確保は、グローバルな健康と経済安全保障のための投資です。

# 2.5X

2.5倍：2019～2020年に発生したコンゴ民主共和国東部でのエボラ出血熱流行中、麻疹（はしか）による死者がエボラによる死者の2.5倍に。



# 今何をすべきか



**II** このような時に必要なのはグローバルな結  
束です。誰ひとり取り残さないため、各国政  
府、ワクチン製造業者、そして民間セクター  
に対し、COVAXを通じてワクチンが公平に  
供給され、配分されるよう求めます。

**ルトノ・マルスディ・インドネシア外相**

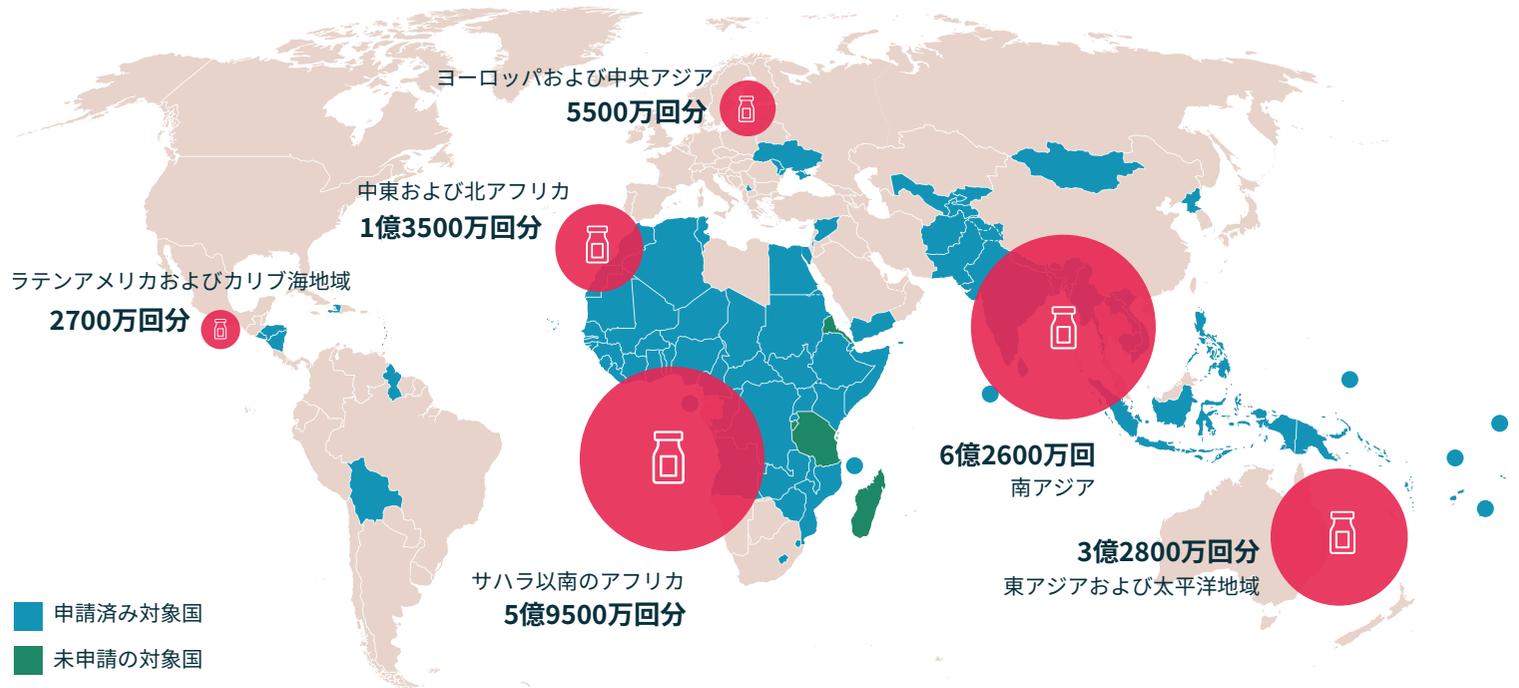
事態は一刻を争います。世界は今、力を合わせてCOVAX AMCの力を最  
大限に活用し、世界全体を守らなければなりません。

現在までに調達された資金により、COVAX AMCは18億回分の命を  
救うワクチンを少なくとも事前予約できました。これでようやくパンデミ  
ックを制御できるという希望が見えてきました。しかし、変異株の発生  
による世界的な感染者数の急増のため、これまでの成果が脅かされて  
います。COVAXの能力を最大限に生かすには、さらなる資金調達が必要  
です。2021年に接種するワクチンを可能な限り確保し(前払い制度  
を通じたものも含む)、ウイルスの変異株や市場力学をめぐる不確実性  
の高い状況が続くとみられる2022年にスムーズに移行するためです。

**2020年初旬までに18億回分のワクチンが接種できた場合、低所得  
国に暮らす人々の30%近くがCOVID-19から守られることとなります。  
ゴールは手の届くところにありますが、速やかに行動しなければな  
りません。**

目標実現のためには、COVAX AMCはこのワクチンを2021年中に  
確保するために必要な残りの資金を調達する必要があります。

図表. 5  
地域別COVAX AMCワクチン供給予測



すでにドナー国政府はGaviに対し、63億米ドル相当をコミットしていますが、まだ資金は足りていません。必要な製造能力を確保するためには2021年6月までの早期の支払いが必要です。オプション分のワクチンに対する支払いを確実にすることで、製薬会社がAMC対象国向けのワクチン生産にコミットする体制が整うからです。今後接種するワクチンのために、入手可能なオプションを今、早急に確保しなければならないことを、私たちは教訓から学んでいます。

**ドナーからの20億米ドルと、MDBの支援による実施国からの追加投資10億米ドルがあれば、COVAXを通じて目標は達成できます。**

# \$6.3BN

Gaviはすでにドナー国政府から63億米ドル相当のコミットメントを受けていますが、まだ資金は足りていません。何も手を打たないこと、そして対応が遅れることのリスクは甚大です。検査能力の向上や重症者に対する有望な治療法の登場など、かすかな希望が見える一方で、命が生活かのせめぎ合いが続いています。

ドナー国政府にとって魅力ある投資オプションの1つがGaviの予防接種のための国際金融ファシリティ (IFFIm) です。これはドナー政府からの長期にわたるコミットメントをベースにワクチン債を発行するという、予防接種のための先払い方式の資金調達 (およびインパクト) です。Gaviは10年以上にわたりこの仕組みを通して資金を調達し、所得の低い国々のGaviのワクチンへのアクセスの加速化に成功してきました。さらにCOVAXのパートナーであるCEPIを通じてCOVID-19ワクチン開発のための資金調達にも貢献しています。

IFFImはすでに、COVAX AMCに必要な多額の資金を確保するために活用されています。2020年10月、IFFImはGaviの事業の中心となる予防接種プログラムおよびCOVID-19ワクチン調達のため、AMCを通じて3年固定利付きワクチン債を5億米ドル相当発行しました。AMCによる資金調達活動の一部として、オーストラリア、ノルウェー、スペインと英国は合わせておよそ8億7300万米ドルを長期のコミットメントとして誓約しました。IFFImのワクチン債は、この誓約をもとにCOVAX AMCがすぐに使える資金へと転換させるのです。IFFImの持つ柔軟性や先払い方式によってGaviへの資金提供がやりやすくなるドナー国に対しては、IFFImを通じたCOVAX AMCへの支援をお願いしています。

さらに、欧州投資銀行 (EIB) が4億4000万ユーロのファシリティを設立し、ドナーに対し無利息・ゼロコストのメカニズムを提供しています。事前に締結された財政支援合意をもとに、早期の現金支払い債務に転換してGaviの将来的な (最長5年) 活動のための資金をまかなくなります。このファシリティはIFFImを補完し、ドナー国の資金コミットメントを繰り上げる形で提供するため、ドナー国の予算サイクルよりも早いタイミングで業界との契約を締結することができるのです。

Gaviは開発金融機関および商業資本の出資者と協力して革新的な金融メカニズムをさらに発展させ、流動性やバランスシート、前払いリスクの課題に取り組み、GaviとAMC対象国の資本アクセスを加速させます。Gaviは出資者に対し、GaviおよびCOVAXとともに革新を続け、ドナー資金や民間資本、市場を活用し、資本構成の効率を最大化するよう呼びかけています。

AMC各国がCOVID-19ワクチンの費用を分担できるかどうか、そしてMDBとIFIがCOVAXと連携の上、国ごとにこれを実現できるかが非常に重要です。国ごとの需要が把握されたのち、各国とMDBは追加ワクチンの購入に向け、法的拘束力のあるコミットメントに移行します。そのためには具体的な供給予測が必要です。Gaviは引き続きMDBパートナーと協力して各国の国内資金調達を支援するとともに、これらの国々が多国間パンデミック対策に統合され、COVAXを通じたワクチン調達と接種の両面で支援を受けられるようにします。

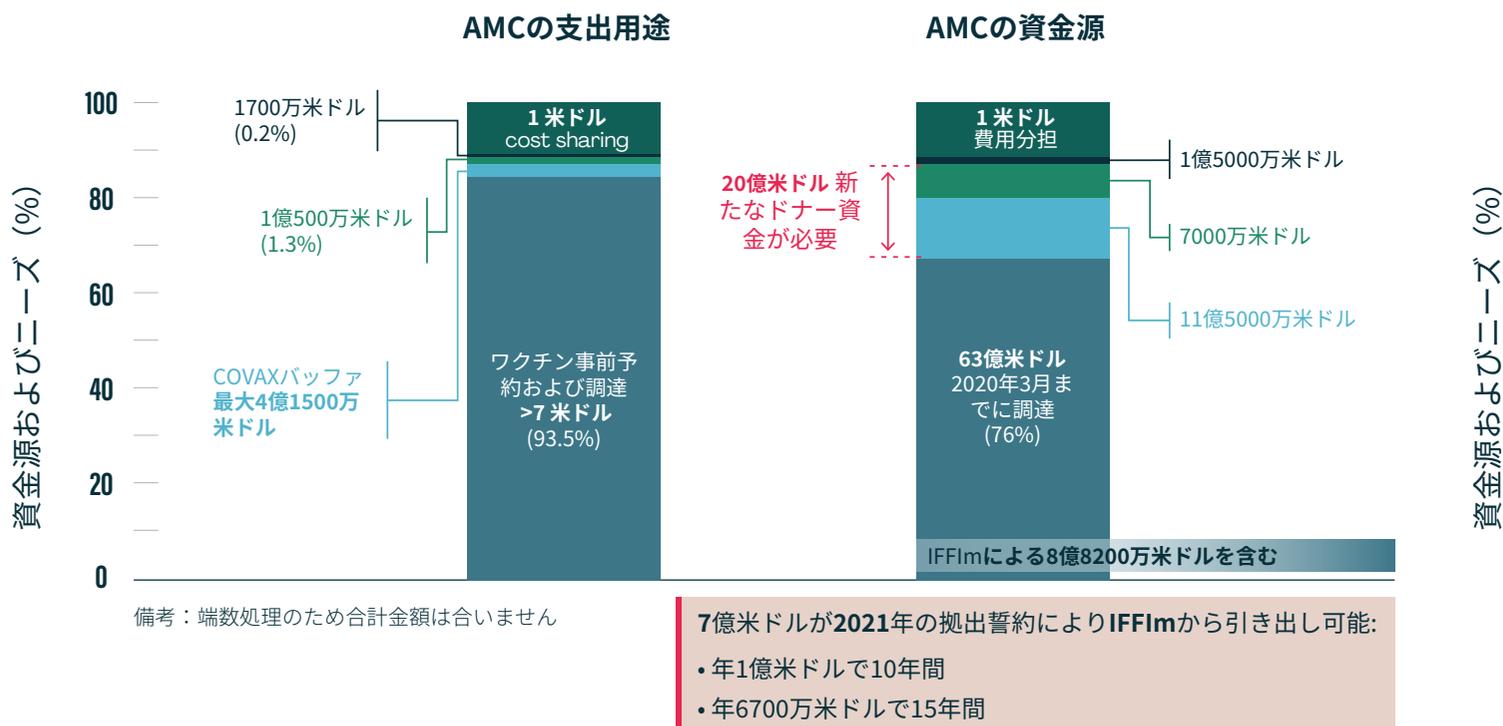
**私たちは企業や慈善団体、財団などに対し直接拠出を呼びかけます。**ワクチン共同購入を加速し、グローバルな取り組み支援のための資金提供を推奨するためです。また、COVID-19ワクチンの効率的かつ効果の高い接種をさらに後押しするために、現場の政府や省庁関係者を、専門性とイノベーションをもって支援します。

私たちの目標は、民間セクターから1億5000万米ドルの追加資金を調達することです。Gaviの民間セクターのパートナーは、過去にも速やかに寄付を行っています。現在の状況を鑑みると、早期の資金調達はワクチン確保のためには欠かせません。Gaviはバーチャルフォーラムを通じて企業・慈善団体の支援者に定期的にアップデートを提供すると約束しています。このフォーラムにおいて情報共有を行い、COVAX AMCによるワクチン接種の進捗状況を報告することで、彼らは各国のワクチン接種支援者としての確固たる立場を維持できます。また、接種の妨げとなる問題を効果的に解消するためのビジネスノウハウと専門性を提供します。

パンデミックが私たちの命と生活に与える甚大な影響を考えれば、民間セクターのCOVAX AMC支援は、資金拠出できる立場の人々に課せられた道徳的責務です。しかし、COVAXの支援には、それ以上に現実的な理由が存在します。パンデミックは多くのビジネスにとって脅威です。パンデミックの収束は命を救いますが、生活と経済を救うことをも意味するのです。今も続く健康危機に経済危機までのを避け、グローバル経済の成長を早ければ今年中に取り戻すためにも、COVAX AMCは今ある中の最高のツールなのです。

図表. 6

## COVAX AMCの資金源および支出用途<sup>6</sup>



最後に、我々は、COVAX ワクチンシェア原則に沿って余剰ワクチンをCOVAX経由でシェアするよう呼びかけます。寄付された余剰ワクチンは支援国で最大限活用されることになります。

**自己資金拠出だけでなく、AMC対象国はワクチン接種実施にも積極的に関与しなければなりません。**

新たなワクチンの導入と接種の拡大はきわめて複雑なプロセスです。国内規制の道筋や人的資源、訓練能力、ロジスティクス・システムとコールドチェーンの構築、優先接種対象者への接種計画、データ収集、

モニタリング(ワクチン接種が適切で安全かどうか)、社会的動員やコミュニティ参画(情報提供によってCOVID-19ワクチンへの信頼性を高める)など、多くの工程が必要になります。

GaviとCOVAXの主要パートナーは、すべての国が確実にワクチンを受け取れるよう努めます。国内資金や、迅速な外部資金援助へのアクセスが不足している国々はワクチンを自己調達できないからです。COVID-19ワクチンは貴重な商品です。従ってGaviとCOVAXパートナーは、ワクチンが適切に取り扱われ、保管され、使用され、偽ワクチンをなくし、接種対象グループに適切に接種が実施されるよう、さらに努力しなければなりません。

ワクチン接種拡大に関するGaviの活動原則は、接種のスピード、インパクトのスピード、リスク軽減、バリュー・フォー・マネー(価格相応)、そして長期にわたる予防接種のためのインフラ強化です。パンデミック対策が今必要とされているのと同時に、Gaviの支援は公平で質が高く、効率的で持続可能な幅広い予防接種プログラムの構築にも対象にしています。誰ひとり取り残さずに予防接種を実施することは、Gaviが2021~2025年の新戦略期間で最も重要視している目標です。予防接種における不平等を減らすため、Gaviは、スラムであれ、紛争地域であれ、遠い僻地であれ、場所にかかわらず、予防接種やその他の重要な保健サービスからこぼれ落ちた子どもとコミュニティのための、持続的な予防接種サービスを立ち上げ、強化することを目標にしています。

Gaviは予防接種分野の主要な関係者が参加する官民パートナーシップとして設立され、メンバーには国際製薬団体連合会(IFPMA)や途上国ワクチン製造業者ネットワーク(DCVMN)も名を連ねます。あらゆる所得レベルの国々のワクチン製造業者が参加していることは、パンデミック急性期の収束、そして将来的なCOVID-19制御のために極めて重要です。業界がGaviと手を携えてCOVAX AMCに取り組むことは、所得の低い国々が今後も十分な量の適切で安全かつ有効なワクチンにアクセスするために不可欠なのです。



## 国連機関、国際金融機関、市民社会組織、国内の医療・保健チームおよびパートナーは引き続きGaviとの協力が必要です。

Gaviは引き続きパートナーとともに、ワクチン接種計画および支援のために欠かせない情報と資金を提供します。Gaviと共に調達を主導するユニセフ物資供給センターは、ワクチンを調達し、製造業者から実施国の港に輸送するまでのシステムを確立しています。後者の時点で、ワクチンの所有権は実施国に委ねられます。この連携に不可欠なのが、Gaviとパートナーの支援の下、実施国が効率的な予防接種実施に必要な人員と資金を確保していることです。COVAX AMCは実施国による報告に基づき、提供資金の用途について説明責任を果たします。

## WHOは引き続き新たなワクチン認可を行う必要があります。

WHOは新たなワクチンの専門家による評価・事前資格審査または緊急時使用リスト (EUL) 記載手続きを行います。このきわめて重要な手続きは、COVAX AMCがさまざまな技術を使った幅広いワクチン候補に投資・調達とするため、迅速に行われなければなりません。



**最後に、世界はワクチンへの信頼を高めるために力を合わせねばなりません。**



**パンデミックとの闘いは、ワクチンの安全性と恩恵にかかわる誤った情報に妨げられる危険をはらんでいる。**

パンデミックとの闘いは、ワクチンの安全性と恩恵にかかわる誤った情報に妨げられる危険をはらんでいます。Gaviはワクチンに関するデマ拡散の問題解決に積極的に取り組み、誤情報を発見・特定・対応するシステムを開発しています。この取り組みの一環として、Gaviは主要な世界的ソーシャルメディア・プラットフォームとパートナーシップを結び、引き続きワクチンの信頼性について積極的に発信していきます。Gaviによる保健システム強化への投資は、感染対策からワクチン接種実施へと移行するコミュニティの保健医療従事者を支援します。それと平行して、実施国の関係者を巻き込み、行動に影響を与え、コミュニティレベルでCOVID-19に関する情報交換を推進するため、各国の実情に合わせた戦略キャンペーンも始まっています。市民社会の働きもまた、コミュニティにおいてワクチンの恩恵に対する信頼を高めるために不可欠です。

# 今こそ行動 を起こす時

“ COVID-19は世界を変えてしまいました。命を奪い、保健システムは疲弊し、人々の生活もダメージを受けています。しかし、この試練は人間性の最良の部分も引き出しています。そしてそれは、国際協調の形で実現しているのです。

ナナ アクフォ-アド、ガーナ大統領



何も手を打たないこと、そして対応が遅れることのリスクは甚大です。検査能力の向上や重症者に対する有望な治療法の登場など、かすかな希望が見える一方で、死別や隔離は多くの人々を苦しめています。命か生活かのせめぎ合いが続いています。もし所得の低い国々の最も弱い立場にいる人々が守られなければ、各国はこれからも感染者数と死亡者数の増加を目の当たりにし、プライマリ・ヘルスケアサービスと主要な社会セクターにはいっそうの重圧がかかるのです。第二次・第三次の保健医療施設とそのスタッフへの負担は、プライマリ・ヘルスケアと予防医療にも連鎖的に悪影響を及ぼす可能性があり、政府の医療予算を圧迫します。これは医療格差の問題です。経済成長の停滞は、経済的・政治的・社会的不安定化につながりかねません。アフリカ大陸だけを見ても、2020年のGDPは5%減少しました。しかし、影響を受けるのは所得の低い国々だけではありません。COVID-19パンデミックに対して世界が対策を怠れば、高所得国においても変異株を含むウイルスの蔓延が続き、難しい政治判断を迫られ、貿易が縮小し、経済機会が失われるリスクが高まるのです。世界経済は弱体化したまま立て直す機会を与えられず、長く厳しい不景気と前例のないレベルの国際債務により次世代および未来の世代の見通しはますます厳しいものとなります。

これは経済効率のよい緊急課題です。IMFは、パンデミックにより世界経済は2025年までに28兆米ドルの損失を出すと試算しています。世界銀行は、パンデミックによって2021年中に1億4300万人から1億6300万人が極度の貧困に陥ると予測しています。すでに13兆8000億米ドルの緊急融資がG20諸国によりパンデミック対策のために使われました<sup>7</sup>。これらの壊滅的な経済的影響は人材育成の後退につながり、持続可能な開発目標(SDGs)の実現を脅かします。

現在、どの国にとってもパンデミック急性期を収束させることが最善の経済政策です。グローバル化された経済においては、すべての国は互いに依存し合い、成長するためには多国間主義と協力関係が必要です。すべての国が立ち直るまで、どの国も完全には立ち直ることができないのは明らかです。COVAX AMCへの拠出はその立ち直りのための投

資であり、ともに、よりよい形で経済を立て直すためには欠かせません。早急な投資が必要です。1日先送りするごとにパンデミックは悪化し、感染者数が増加し、新たな変異株が現れます。そして日ごとにより多くのビジネス、仕事、コミュニティーを危険にさらし続けます。

これは道徳的な緊急課題でもあります。高所得国から順番にワクチンが供給された場合、死亡例の33%を防ぐことができますが、人口に応じてすべての国にワクチンを分配した場合は死亡例の61%を防ぐことができます。インパクトは2倍になるのです<sup>8</sup>。

ワクチンへのアクセスを加速し公平に分配することはすべての人々の利益です。無秩序にパンデミックから脱すれば、世界は何倍もの打撃を受けることとなります。金銭的な打撃だけではありません。若者や女児、女性から機会が奪われ、政治の不安定化につながり得る不平等状態が悪化し、保健システムと保健医療従事者に過度の負担がかかり、多国間対応は失敗し、奪われなくてよい命が失われるのです。

**あらゆる場所でウイルスとの闘いに勝たねばなりません。なぜならばすべての人が安全になるまで、誰も安全ではないからです。**

## 添付資料1: ACTアクセラレータとCOVAX

ACTアクセラレータ(ACT-A)は、期間限定の国際協働枠組みであり、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の診断・治療・ワクチンの開発、生産、そして公平なアクセスを加速化させるために、グローバルな公衆衛生インフラと専門性を迅速に活用する目的で設計されました。

ACT-Aの参加組織は、国際的なCOVID-19対策にそれぞれの専門性をもって貢献します。その活動は、ワクチン・治療・診断という3つの柱に組み込まれ、分野横断的なヘルスシステムコネクタ(HSC)の支援を受けつつ、アクセスと分配を決定するワークストリームのアドバイスに沿って実施されます。それぞれの柱は、個別の体制とプロセスに基づく行動計画の立案と実施を任されています。市民社会組織の参画に関するワークストリームは、ACT-A全般に関して市民社会とコミュニティーの意見を反映できるようにします。

ACT-Aを通じ、主導する各組織は各国政府や市民社会組織、企業と緊密に連携し、パンデミック収束のためのツール開発に向け、総合的アプローチを提供します。すべての柱が不可欠です。病気から人々を守り、速やかに新規感染者を特定してさらなる感染拡大を防ぎ、感染・発症した人に治療を施し、迅速なツール開発を支援する。この複合的な介入策がCOVID-19の感染拡大と重症化を抑え、パンデミックが経済に与える打撃を最小限に抑えるのです。

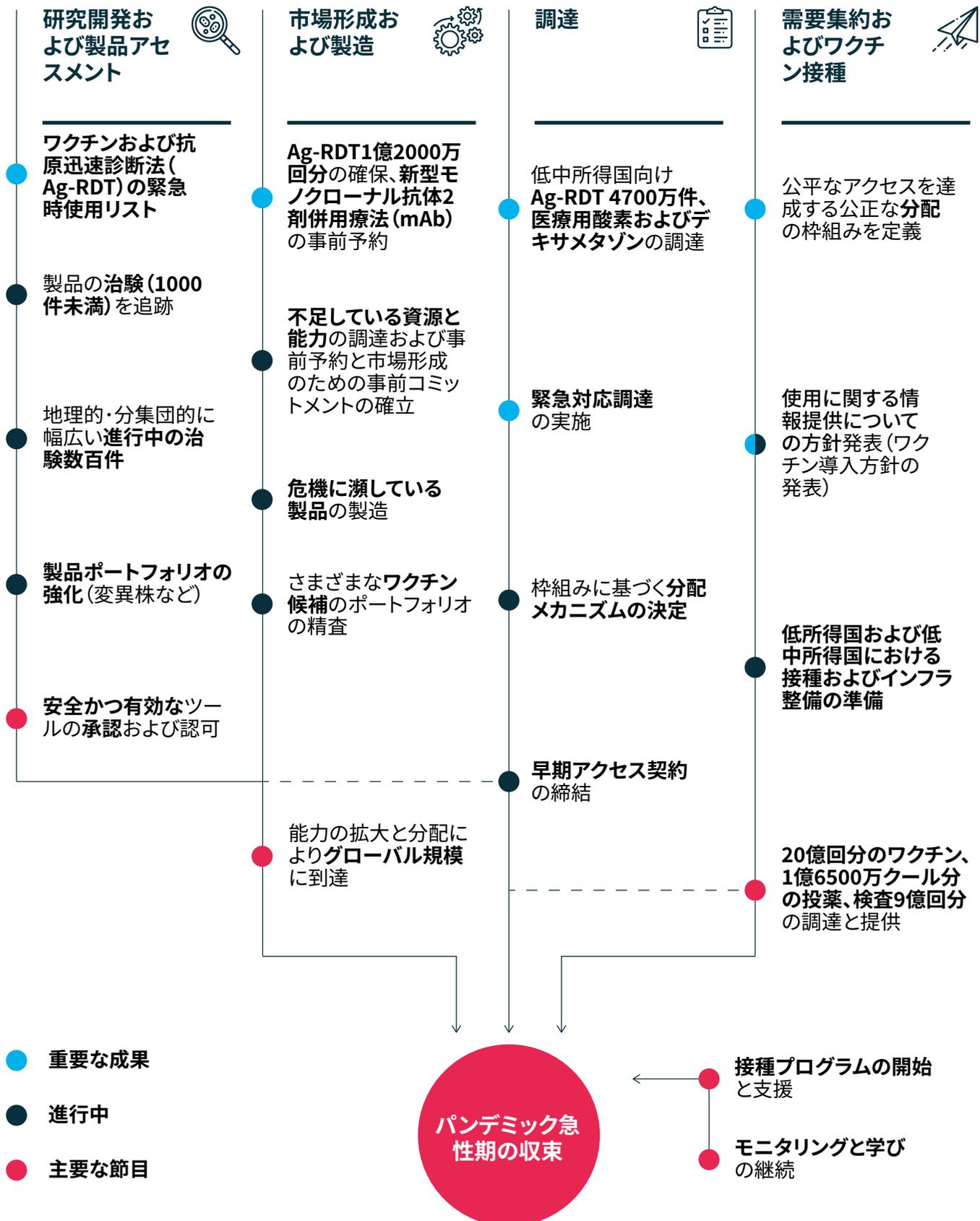
### ACTアクセラレータにおけるワクチン供給の柱

COVAXはACT-Aのワクチン供給の柱で、CEPI、GaviおよびWHOが共同主導し、ユニセフが主要なパートナーとして参加しています。

すべてのパートナーは異なる役割を担います

- **CEPI**は幅広いCOVID-19ワクチン候補のポートフォリオを管理し、新たな候補のCOVAXポートフォリオ追加に際して有効性が期待できる候補かどうかを評価します。
- **Gavi**はワクチン製造業者と交渉し、供給の逼迫下で初期のワクチンを確保し、ユニセフの供給部門およびPAHOとともにワクチン調達を行い、参加国政府との契約締結と資金の調整を担い、AMC対象92ヶ国のために資金調達を行います。
- **WHO**はワクチンの分配および規制プロセスをまとめ、対象国のワクチン受け入れ態勢を評価し、技術支援を行います。
- **ユニセフ**は汎米保健機構 (PAHO) と共同でCOVID-19ワクチンを調達し、輸送と備蓄を含むワクチン分配のロジスティクスを担当します。

## 2021年の目標を迅速に達成するためのバリューチェーン 全域にわたる加速的かつ同時並行的なワークストリーム を通じたACTアクセラレータのクリティカルパス<sup>9</sup>



## 添付資料2: AMC対象国リスト

**Gavi COVAX AMCは92ヶ国の所得の低い国々を支援しています。**

**低所得国:**アフガニスタン、ベニン、ブルキナファソ、ブルンジ、中央アフリカ共和国、チャド、コンゴ民主共和国、エリトリア、エチオピア、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ハイチ、朝鮮民主主義人民共和国、リベリア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モザンビーク、ネパール、ニジェール、ルワンダ、シエラレオネ、ソマリア、南スーダン、シリア・アラブ共和国、タジキスタン、タンザニア、トーゴ、ウガンダ、イエメン共和国

**低中所得国:**アンゴラ、アルジェリア、バングラデシュ、ブータン、ボリビア、カーボベルデ、カンボジア、カメルーン、コモロ、コンゴ共和国、コートジボワール、ジブチ、エジプト、エルサルバドル、エスワティニ王国、ガーナ、ホンジュラス、インド、インドネシア、ケニア、キリバス、キルギス共和国、ラオス人民民主共和国、レソト、モーリタニア、ミクロネシア連邦、モルドバ、モンゴル、モロッコ、ミャンマー、ニカラグア、ナイジェリア、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、サントメ・プリンシペ、セネガル、ソロモン諸島、スリランカ、スーダン、東ティモール、チュニジア、ウクライナ、ウズベキスタン、バヌアツ、ベトナム、西岸地区およびガザ地区、ザンビア、ジンバブエ

**追加の国際開発協会 (IDA) 対象国:**ドミニカ、フィジー、グレナダ、ガイアナ、コソボ、モルディブ、マーシャル諸島、サモア、セントルシア、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、トンガ、ツバル

## 添付資料3: 2021年4月7日までにGaviのCOVAX AMC に誓約された63億米ドルの内訳<sup>10</sup>

重要な成果:COVAX AMC 2021年 100万米ドル

ドナー国政府	直接拠出				IFFIm (拠出)				拠出合計
	通貨	直接拠出 現地通貨	FXレート	直接拠出 米ドル	通貨	IFFIm 現地通貨	FXレート	IFFIm 米ドル	
オーストラリア	豪ドル	40.0	0.7700	30.4	豪ドル	40.0	0.7700	30.8	61
ブータン	米ドル	0.005	1.0000	0.005					0.01
カナダ <sup>2</sup>	米ドル	197.0	1.0000	197.0					197
コロンビア	米ドル	0.5	1.0000	0.5					1
日本	米ドル	200.0	1.0000	200.0					200
韓国	米ドル	10.0	1.0000	10.0					10
クウェート	米ドル	10.0	1.0000	10.0					10
モナコ	ユーロ	0.05	1.2200	0.1					0.1
ニュージーランド	NZドル	17.0	0.7200	12.2					12
フィリピン	米ドル	0.1	1.0000	0.1					0.1
カタール	米ドル	10.0	1.0000	10.0					10
サウジアラビア	米ドル	153.0	1.0000	153.0					153
シンガポール	米ドル	5.0	1.0000	5.0					5
スイス	スイスフラン	20.0	1.1300	22.5					22
英国 <sup>3,4</sup>	米ドル	60.6	1.0000	60.6	英ポンド	500.0	1.3492	674.6	735
米国 <sup>5</sup>	米ドル	2500.0	1.0000	2500.0					2,500
<b>ドナー国政府合計</b>									<b>3,917</b>

チーム・ヨーロッパ	直接抛出				IFFIm(抛出)				抛出合計
	通貨	直接抛出 現地通貨	FXレート	直接抛出 米ドル	通貨	IFFIm 現地通貨	FXレート	IFFIm 米ドル	
オーストリア開 発協力	ユーロ	2.4	1.2200	2.9					3
ベルギー	ユーロ	4.0	1.2200	4.9					5
デンマーク	DKK	50.0	0.1600	7.9					8
エストニア	ユーロ	0.1	1.2200	0.1					0.1
欧州委員会	ユーロ	400.3	1.2200	488.7					489
フィンランド	ユーロ	2.0	1.2200	2.4					2
フランス <sup>6</sup>	ユーロ	100.0	1.2200	122.0					122
ドイツ <sup>7</sup>	ユーロ	900.0	1.2200	1097.1					1,097
ギリシャ	ユーロ	1.50	1.2200	1.8					2
アイスランド	アイスランド・ クローナ	250.0	0.0078	1.9					2
アイルランド	ユーロ	4.0	1.2200	4.8					5
イタリア <sup>8</sup>	米ドル	103.8	1.0000	103.8					104
ルクセンブルク	ユーロ	1.0	1.2200	1.2					1
オランダ	ユーロ	30.0	1.2200	35.7					36
ノルウェー <sup>9</sup>	米ドル	24.9	1.0000	24.9	NOK	1000.0	0.116	115.7	141
スペイン					EUR	50.0	1.2200	61.0	61
スウェーデン	スウェーデ ン・クローナ	200.0	0.1218	23.8					24
<b>チーム・ヨーロッパ合計</b>									<b>2,101</b>

## 60 投資機会

財団・企業・組織	直接拠出				IFFIm (拠出)				拠出合計	
	通貨	直接拠出 現地通貨	FXレート	直接拠出 米ドル	通貨	IFFIm 現地通貨	FXレート	IFFIm 米ドル		
匿名の財団	スイスフラン	20.0	1.1300	21.8					22	
匿名のドナー <sup>9</sup>	米ドル	2.0	1.0000	2.0					2	
匿名のドナー	スウェーデン・クローナ	1.5	0.1218	0.2					0.2	
ビル&メリンダ・ゲイツ財団(BMGF) <sup>10</sup>	米ドル	156.3	1.0000	156.3					156	
KS Relief/Gamers Without Borders	米ドル	26.3	1.0000	26.3					26	
マスターカード	英ポンド	1.0	1.3700	1.4					1	
マクヒュー・オドノバン財団	米ドル	0.1	1.0000	0.1					0.1	
メドライン・インターナショナル	ユーロ	0.02	1.2200	0.02					0.02	
日本経済新聞社	米ドル	0.04	1.0000	0.04					0.04	
PPL	英ポンド	0.01	1.3700	0.01					0.01	
リード・ヘイスティングスおよびパティ・クイリン	米ドル	30.0	1.0000	30.0					30	
シェル	米ドル	10.0	1.0000	10.0					10	
サッカー・エイド	英ポンド	3.0	1.3700	4.1					4	
ThistleDown Foundation <sup>11</sup>	カナダドル	5.0	0.7800	3.9					4	
TikTok <sup>12</sup>	米ドル	10.0	1.0000	10.0					10	
Wise	米ドル	5.0	1.0000	5.0					5	
ワクチンフォワード・イニシアチブ	スウェーデン・クローナ	2.0	0.1218	0.2					0.2	
その他の民間セクター	ユーロ	1.2	1.2200	1.2					1	
<b>財団・企業・組織合計</b>									<b>272</b>	
<b>現在までの拠出誓約合計</b>				<b>5,408</b>					<b>882</b>	<b>6,290</b>

## 保証

チーム・ヨーロッパ(欧州委員会/欧州投資銀行) <sup>13</sup>	ユーロ	600.00	1.2200	732
---------------------------------------	-----	--------	--------	-----

63億ドル

ワクチン購入に焦点を当てた上記の表に加え、ワクチン供給および(または)ロジスティクスに向けた以下の誓約もなされています。

- ・カナダ: AMC92ヶ国へのCOVID-19ワクチン供給に7500万カナダドル
- ・ドイツ: COVAX AMCのワクチンロジスティクスのため、Gaviに対し1億8000万ユーロ(ユニセフ)
- ・米国: 2021~2022年のCOVID-19ワクチン供給に5億米ドル

## 備考および注意事項

### 巻末注

- <sup>1</sup> 出典: The Economic Case for Global Vaccinations (2021年1月)
- <sup>2</sup> COVAXのバッファは人道支援の現場に暮らすハイリスク・グループのために使われるCOVID-19ワクチン。これは難民や国内難民、および非国家主体の支配地域に暮らす人々を指すが、この限りではない。
- <sup>3</sup> WHOとUNICEFによる各国の推計接種率 (WUENIC) 2019年データ。
- <sup>4</sup> 出典: The Lancet (2021年1月5日)  
([https://www.thelancet.com/journals/lanres/article/PIIS2213-2600\(21\)00005-9/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/lanres/article/PIIS2213-2600(21)00005-9/fulltext))
- <sup>5</sup> 範囲はインペリアル・カレッジ・ロンドンおよびシアトルにあるワシントン大学医学部保健指標評価研究所が作成した統計モデルより導出。(2021年3月)
- <sup>6</sup> 2021のAMC運営費用は1720万米ドル。COVAXの3年間で、AMCの運営費用は4400万米ドルと見積もられている。
- <sup>7</sup> 出典: The Economist / IMF (2021年3月6日号)
- <sup>8</sup> 「2020年 ゴールキーパーズ・レポート」に掲載されたノースイースタン大学生物・社会技術システムモデリング研究室 (MOBS LAB) によるデータに基づく  
<https://www.gatesfoundation.org/goalkeepers/report/2020-report/#CollaborativeResponse>
- <sup>9</sup> 出典: ACT-Accelerator Prioritized Strategy & Budget for 2021 (2021年3月)
- <sup>10</sup> 添付資料3に付随する備考は以下の通り
  - <sup>1</sup> 2020年12月31日現在のFXレート)
  - <sup>2</sup> 未分配のAMC-PCVファンドの案分負担2500万ドルを指す。
  - <sup>3</sup> 未分配のAMC-PCVファンドの案分負担6060万ドルを指す。
  - <sup>4</sup> COVAX AMCへの他国の財政支援を条件とする5億英ポンドの未確定分を含む。

- <sup>5</sup> 米国は所得の低い国々向けCOVID-19ワクチンの調達と接種に向け、Gaviに対する40億米ドルの拠出を承認。この総額から2021年にAMCに対してワクチン調達のため25億ドルが提供される。
- <sup>6</sup> フランスはワクチンが承認されしだいCOVAX AMCに対し1億ユーロを拠出する。
- <sup>7</sup> ドイツは2021年2月19日に9億8000万ユーロの追加拠出を誓約。このうち7億ユーロがCOVAX AMCを通じた低所得国および低中所得国向けワクチンの購入に、1億ユーロがCOVAX AMCの人道支援用バッファを通じた人道支援用ワクチンの確保に、1億8000万ユーロがユニセフ宛てのワクチン供給ロジスティクスに充てられる。
- <sup>8</sup> 未分配のAMC-PCVファンドの案分負担7940万ドルを指す。
- <sup>9</sup> 匿名のドナーによるCOVAX AMCのCAF USAプロジェクト向け資金提供。
- <sup>10</sup> 未分配のAMC-PCVファンドの案分負担630万ドルを指す。
- <sup>11</sup> Thistledown FoundationによるCOVAX支援プロジェクトCAF Canada向け資金提供。
- <sup>12</sup> 500万ドルのBMGFマッチングファンドを含む。
- <sup>13</sup> チーム・ヨーロッパによる将来的な低中所得国用ワクチン購入向け。

**ワクチン1回分の価格計算:** どのワクチン候補が開発に成功するかを予測することは難しいため、直接・間接費用を含むワクチンの見積もり価格を、接種1回分あたり5.20米ドルとします。これはGaviとパートナーがAMCのために作成したポートフォリオ予測におけるワクチンを加重平均したものです。この価格には接種に必要な注射器のコストや輸送コスト、各国の港にワクチンを届けるための保険、無過失補償制度の準備金などが含まれます。ポートフォリオの平均コストは新たな変異への対応が追加されるにつれ増加することが予測され、2022年のシナリオにおける直接・間接費用を含むワクチンの見積もり価格は1回分あたり4.20米ドルから7米ドルの範囲です。

**製造の拡大:** COVAX AMCは、ワクチン製造業者が製造を拡大・計画するのに必要な資本を確実に確保できるようリスクを負います。すべての投資が払い戻し可能なわけではなく、ワクチン開発が失敗した場合、投資が無駄になる可能性もあります。その代替策は、ワクチンが承認された際に契約を結ぶことですが、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の内部分析によると、この場合COVAX AMCが支援する92ヶ国は、その他の国向けの生産が完了するまで最長3~4年待たねばなりません。COVAX AMCは予測される最大損失額を調達費用の見積もり総額の10%以下に維持することに成功しました。さらにワクチンポートフォリオの動的管理によって減損のリスクを確実に抑制し、供給過多のリスクを最小限に抑えます。

**図表に使われた予測についての注意:** 使用された予測は2021年4月7日時点における最新情報に基づいています。

**契約:** 供給予測には、すでに締結済みの契約に基づく情報と現在交渉中の情報が含まれています。契約条件は変更される場合があります。

**ワクチン候補の除外:** ワクチン候補の一部は現在も臨床開発の途上です。臨床試験において前向きな成果(安全性と有効性)が見られない場合や承認が下りない場合、COVAXは該当するワクチン候補の調達を行いません。

**承認:**供給のタイミングはワクチンの承認と個別バッチの検査(バッチリリース)を含むタイムラインによって定まります。

**ワクチン製造:**多くの場合、製造はまだ最大規模には達していません。ワクチン製造の生産力は多様なファクターの影響を受け、供給量や供給のタイミングに反映されます。

**供給:**供給のタイミングはさまざまな要因に影響されます。たとえば輸入規制や対象国の規制当局の承認、ワクチンの受け入れ態勢、ロジスティクス、補償と責任の整備、国内での配布の問題などが挙げられます。

**分配:**供給予測は、需要に応じて案分される各参加国へのワクチン割り当て分を反映した指標です。最終的な供給時期と量についてはWHOの分配メカニズムによって決定されます。

**資金調達額:**数字はすべての供給可能性が満たされた場合の最大値。この規模の調達が可能になるかどうかは、COVAX AMCの資金調達状況、ドナー資金によるワクチンに加え、AMC92ヶ国がどれだけ費用負担できるか、そして最終的なワクチンの価格とAMC92ヶ国への供給量次第となります。

ドナー、ワクチン製造業者、  
そして参加国によるこれまで  
にないパートナーシップ  
を通じて、COVAXは国際社  
会にワクチンを公平に分配  
するという目標に向かい、  
記録的な速さですばらしい  
節目を迎えました。

アントニー・ブリンケン  
アメリカ国務長官

ナナ アクフォ-アド

表紙 Gavi/2020/Oriane Zerah; 4頁 Gavi/2009/Olivier Asselin; 7頁, 28頁, 35頁 Gavi/2021/Benedikt V.Loebell; 10頁 Gavi/2020/Isaac Griberg; 16頁 Gavi/2020; 19頁 Gavi//2009/Dan Thomas; 19頁 Gavi//2013/Mithra Weerakone; 19頁 Gavi//2013/Christ Stowers; 20頁 UNICEF/UN0420496/Krishnan; 23頁 Gavi/2020/Asad Zaidi; 27頁 UNICEF/UN0426487/COVAX/Edward; 30頁 Gavi/2020/Maya Hautefeuille; 33頁 Gavi/2013/Evelyn Hockstein; 38頁 UNICEF/UNI323834/Abdou; 40頁 Gavi//2017/Asad Zaidi; 47頁 UNICEF/2020/Arimacs Wilander; 48頁 Gavi/2013/Evelyn Hockstein; 50頁 UNICEF/UNI331376/Haro



CEPI

